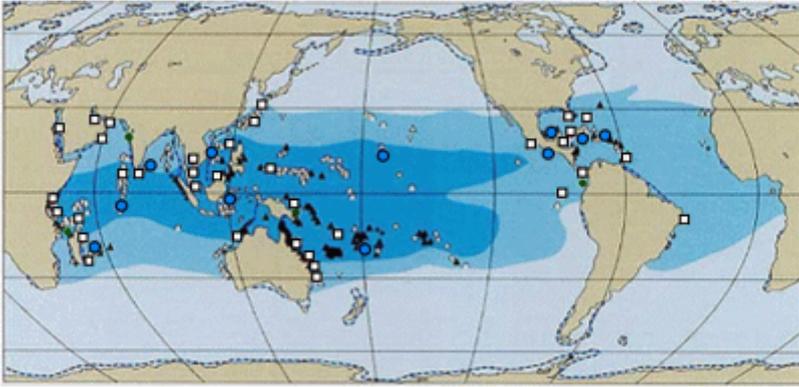


# 世界のサンゴ礁に深刻な状況がひろがっている



年々深刻化しているサンゴの白化現象ですが、沖縄だけの話ではありません。それ以前にも東南アジア、インド洋・モルジブ、アフリカ東海岸、グレートバリアリーフ、カリブ海と、すでに世界各地でおこっていました。

世界規模で見たとき、その原因として考えられているのが過去最大規模のエルニーニョですが、それに留まらず、過去80年間の冬の海水温上昇、北半球の気温上昇など、さまざまな地球温暖化の現象が影響していると考えられます。

サンゴの異変は、地球規模の気候の大変動の予兆を映し出しているのかもしれませんが。

上の地図は世界のサンゴの白化の状況を表しています。海上の青い部分がサンゴの生息範囲です。白いの部分は深刻な白化が認められた地域です。青い●は白化が認められる地域です。

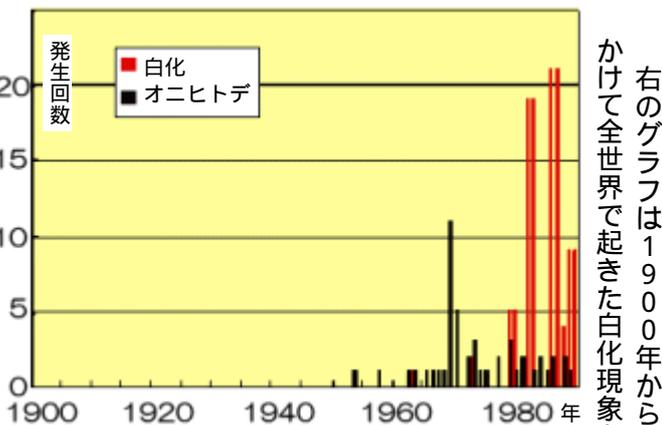
これを見ると世界中のサンゴが深刻な状況になっているのがわかります。

サンゴ礁の減少は、すでに全世界で10〜20%にも及び、年々5%程度の割合で広がっています。

これには海水温の上昇と人間の様々な活動が大きく影響しています。

陸で森林が保水やCO<sub>2</sub>の削減に貢献しているように、海ではサンゴ礁が同じような働きをしています。サンゴ礁は地球環境の保全になくてはならないものなのです。

大規模なサンゴの白化現象の報告は1980年代以降急激に増加しています。地球温暖化のシミュレーションで予想される海水温の上昇と、過去にサンゴの白化を引き起こした海水温をあわせて考えると、今後サンゴの白化の頻度はますます高くなると思われます。



右のグラフは1900年から1990年にかけて全世界で起きた白化現象とオニヒトデの大発生の回数です。

オニヒトデの被害が1970年頃から減少しているのに対し、白化現象は近年になって急激に増加しているのがわかります。

サンゴ礁は熱帯雨林と同じように地球上の二酸化炭素を調節しているといわれています。サンゴの体内に共生する褐虫藻の光合成がCO<sub>2</sub>を吸収して酸素をつくっています。一説によると、地球上の二酸化炭素の65〜70%をコントロールしているともいわれています。

サンゴのはたらきが、地球温暖化などの環境全体に果たす役割についての数値的な裏付けはまだはっきりわかっていませんが、温暖化の防止に大きな役割を果たすことは間違いのないことでしょう。

またサンゴ礁には多種多様な生物が生息しています。まさに海洋生物の生態系を支える大切な環境です。サンゴ礁のある海は酸素と栄養分に富み、様々な生物の楽園となって、巨大な生態系を形成しています。

このようにサンゴ礁は海や海洋生物にとって、かけがえのない存在です。サンゴが死滅・減少するということは、海の生態系が変化してしまうほど大きな影響を及ぼすのです。



海洋生物の楽園 サンゴ礁